

◆ガザ攻撃で米領事館抗議行動

先月二七日からイスラエル軍によるガザ攻撃が始まった。以来二五日間で一四〇〇人以上が虐殺され五〇〇〇人以上が負傷した。東京イスラエル大使館抗議や反戦集会、そして世界各国の反戦抗議集会に比べればもの数ではないが、関西各地でも抗議行動が展開された。一月二〇日のオバマ大統領就任式に併せたかのようにイスラエル軍は撤退し、ハマースもひとまず停戦に応じた。停戦はしたもののガザ地区は依然として封鎖は解除されていない。

関西では一月二九日、釜ヶ崎支援有志の呼びかけで米領事館への抗議をきっかけに、以後一月五日、一五日、二〇日に米領事館抗議と要請として一〇日には実行委員会主催の集会とデモ（約二〇〇人参加）。引き続き二日には労組など実行団体も増え、約五〇〇人が扇町公園で集合しデモを行った。また一九日には『レインボー』上映と岡真理さんの講演が行われ約二〇〇人参加した。このほか京都では三條河原で、神戸では東遊園地で集会とデモが行われ、「名誉総領事」への申し入れなどを行った。一〇日の集会では京大・岡真理さんが発言したが、インターネットを通じ間断なく現地情報を伝え、具体的な提起を発信するなど多くの人が奮い立たせた。また「パレスチナの平和を考える会」の役重君や黒目君などの活躍も今回の行動ではめざましいものがあった。彼等にしても岡さんにしても、既に一〇年以上も前からパレスチナ問題に取り組んできた。

今年の関西の課題としては、二月から夏にかけての、あいば野演習場ミサイル基地のPAC3配備反対があるが、具体的な日程等は地元発信まちなってしている。これらに先行し、三月一九日には「イラク戦争六周年」の集会が、大阪平和人権センターとしないさせない戦争協力・関西ネットとの主催で予定されている。このほか二月一日には、尼崎で三里塚闘争旗開きがあり、上坂喜美さん遺稿集出版記念会が行われる。

(和田喜太郎／関西共同行動)

関西

観

測

◆不発弾爆発事故と国民保護図上訓練

クリスマスの名残りの様なポインセチアの赤があちこちの軒先を飾って、一月二六日は旧正月。しばらくはキビ刈りの季節が続く。

オバマ次期政権発足前の訪米から帰ってきた仲井真知事は、多くの関係者に会えた事で意義を強調しているが、誰と何を話したか？ ノーコメントでは県民に分かりづらい。早速、ケビン・メア総領事から、新政権になっても米軍基地に変化なしと横槍が入る。久米島町は要求する鳥島射撃場返還も、知事公約の普天間飛行場三年内の閉鎖状態もあり得ないとダメ押しされている。せめて支配気取りのメア氏の更迭はないものか？

「本土」からは新北米局長が来沖、C・シュワブを訪れ名護市長とは会うが、普天間飛行場は高台から眺めるだけで地元市長は素通り。

二〇三〇年の沖繩を描く「21世紀ビジョン」に向けて、県振興審議会総会部会はたたき台を作り県民とのフォーラムを始めている。望ましい跡地利用として公園化や交通センター化など環境を考えながらの提案が多い。しかし「0から跡地利用できるのは恵まれている」とか「嘉手納以南の広大な基地の返還を重視して」なんて聞いた日にはゲツソリしてしまう。

一月中旬、本島南部糸満市で配水管施設工事中に、米国製二五〇キロ爆弾の不発弾が爆発、男性が顔や胸に重傷を負い、近くの老人施設では風速七〇メートルに耐えられるガラス百枚が割れたという。市が戦後この方、磁気探査をほとんどやっていないのは、調査費の補助が公共工事に限られ民間工事は対象外という背景があるらしい。「復帰」後三五年間で三万二千件。一七五八トンの不発弾が処理されたが、未だ地中にあると見られる二五〇〇トン回収するには八〇年かかるという。幼稚園児と作業員三名が死亡した一九七四年の爆発事故に国は賠償法を適用せず見舞金で済ませている。この様な国の仕掛ける国民保護法に乗っかって県は初の図上訓練をやるといふ。国籍不明のテログループを想定した訓練とは？

沖繩

ら国籍不明のテログループを想定した訓練とは？

(野口裕子／沖繩・二坪反戦地主会関東ブロック)